

【エクアドル内政・外交：2012年12月】

1. 概要

- 12月 3-4日 コレア大統領のアルゼンチン外遊
- 7日 コレア大統領のメルコスール首脳会談出席
- 10日 コレア大統領がチャベス・ベネズエラ大統領の見舞いのためキューバを訪問
- 11日 コロンビアとの間で、国境都市のトゥルカンにおいて首脳会談及び両国の全閣僚が出席する第1回閣僚会合を実施
- 19日 デルガド中央銀行理事会会長のスキャンダル発覚
- 23日 エクアドル・ペルー首脳会合及び第6回両国合同閣議

2. 内政

デルガド中央銀行理事会会長のスキャンダル

コレア大統領の従兄弟であり、数々の汚職に関与していたとされるペドロ・デルガド中央銀行理事会会長が、大学卒業資格を偽り、ビジネススクールに不正書類を提出して入学し、修士号を取得していたことが発覚し、中央銀行理事会会長及び信託機関AGD-CFN代表の職を辞任することになった。コレア大統領は、デルガド会長を擁護し、プレス批判に強く反発していた。

3. 外交

(1) 対メルコスール関係

7日、コレア大統領はメルコスール首脳会合に出席するためブラジリアを訪問し、エクアドルのメルコスール正式加盟問題については、興味を有しているものの、エクアドルが国内通貨を持っておらず、今後数ヶ月の間、メルコスールで適用されている関税の導入につき見直し、当国の貿易にかかるインパクトを詳細に分析する必要があるため、来年決定を下す旨述べた。

(2) 対アルゼンチン関係

3-4日、コレア大統領はアルゼンチンを訪問し、両国外相間で、経済、文化、農業、防衛分野における4つの協定及び初等・高等教育の履修単位相互認定に関する2つの協定が署名された。また、ラ・プラタ国立大学は、コレア大統領のラ米の主要リーダーの一人としての社会コミュニケーションのための闘いに敬意を表し、Rodolf Walsh 賞を授与した。

(3) 対コロンビア関係

ア. 6日、オルギン・コロンビア外相が当国を訪問し、両国首脳会合・第1回閣僚会合を前に、パティエーニョ外相との間で準備会合を行った。パティエーニョ外相は、今次会談において、主幹道路、電信、観光、投資、ガスパイプ、保健、社会保障、文化、移民、国民間の連帯強化等の分野について議論を行い、右議題は首脳会談での二国間関係の主要議題として提出されること、また3ヶ月に1度、両国関係の進展状況につき見直すことが決定された旨発表した。

イ. 11日、国境都市のトゥルカンにおいてエクアドル・コロンビア首脳会談及び両国の全閣僚が出席する第1回閣僚会合が実施された。両国首脳は、二国間関係の強化、国境地帯の治安、インフラ等の進展に向けて共に努力することを約束した。

(4) 対ベネズエラ関係

10日、コレア大統領は悪性腫瘍切除の外科手術を受けるためキューバに向けて出発した

チャベス・ベネズエラ大統領を見舞うためにキューバを訪問した。

(5) 対シリア関係

11日、コリア大統領は、伯フォーリャ・デ・サンパウロ紙のインタビューに応じ、もしアサド・シリア大統領またはその家族より亡命の申請があった場合には、これを検討する用意があると述べ、シリアの外務副大臣が最近当国を訪問した事実を認めた。